まえがき

新型コロナウイルスの影響は、社会生活や大学の活動において、勤務や研究活動の制限、各種イベントの中止やオンラインへの移行など、新たなコミュニケーションの取り方など大きな変化をもたらした１年間となりました。特に在宅勤務は、長い社会人生活において、平日昼間に自宅に居るという違和感やちょっとした罪悪感もありながら、それでも今後の就業の新たな可能性を見つける良い機会ともなりました。少しでも早く以前のような活動レベルに戻り、技術支援業務に専心できることを願います。

さて、防災研究所技術室の令和２年度の活動成果をまとめた技術室報告第 22 号が完成しました。ご高覧いただき技術職員それぞれの支援実績や持っているスキルなどを知っていただけると幸いです。今年２月に開催されました防災研究所研究発表講演会においても技術支援報告として貴重な時間をいただき、たいへん有意義であり技術職員のプレゼンスを高められたものと考えます。この報告書も第１号から現在までの技術職員の活動データベースと呼べるものです。技術職員の様々な取り組み、創意工夫、多種多様な業務が掲載されています。過去に掲載されたのも併せてご高覧ください。また、令和元年 10 月および令和３年４月新規採用の若手職員も活躍しております。その紹介として今回、報告集に入れさせていただきました。

技術職員をとりまく環境は、時代と共に移り変わり、令和という新しい時代のニーズに合わせて対応していく必要があります。その結果としてバラエティーに富んだ職務内容となり、その一方で幅広さゆえにどのようなことを担っているのか理解され難い状況であるとも言えます。我々技術職員は、時代の要求に対応できるようにそれぞれのスキルアップを図ることは当然ながら、技術室としての組織力向上し、その活動、能力、更には可能性も含めて、所内外に PR して行く必要があると考えています。

報告書の発刊にあたり、多大なご尽力とご支援をいただきました執行部、技術専門委員会をはじめ教員、事務職員、そして関係者の方々には、ここに心より厚くお礼申し上げます。

令和３年(2021 年)　７月

京都大学防災研究所　技術室

室長　吉川　昌宏